

彙 報

会 長 松 本 克 己

平成5年度第2回常任委員会

日 時：平成5年9月11日（土）午後1時半～5時半

場 所：三省堂出版局

出席者：松本克己（会長）、角田太作（事務局長）、井出祥子、荻野綱男、崎山理、長嶋善郎、仁出義雄

オブザーバー：上野善道（会計監査委員）、柴谷方良（編集委員長）

議 事

（1）第107回大会（平成5年度秋季大会）について

講演者・研究発表者などの大会の詳細を決め、プログラムを決定した。

（2）第108回大会（平成6年度春季大会）について

横浜国立大学で6月11～12日に開催する予定である。

（3）言語学会事務局の移転について

会長・事務局長から経緯の説明があり、現在学会事務センターに委託している業務と三省堂の事務局で行なっている業務をあわせて京都の中西印刷に委託する方向で検討することにした。

事務局移転については、移転に伴う経費も必要となり、学会の財政難を招く恐れがあるため、学会役員から1口1万円の寄付をお願いする案が検討された。

（4）その他

〈あ〉次期の選挙について

日程・手順について検討した。また、10月の委員会で会則の一部改訂を行なった上で、選挙にともなって作成される会員名簿の末尾に、新しい事務手続き案内を載せることにした。

〈い〉 11月15日から18日に行なわれるアジア学術会議に対して、日本言語学会が後援することになった。

〈う〉 11月27日から28日に行なわれる津田日本語教育センター主催の日本語シンポジウムに対して、日本言語学会が後援することになった。

平成5年度第2回委員会

日 時：平成5年10月23日（土）午前10時～午後1時

場 所：愛媛大学法文学部本館8階大会議室

出席者：松本克己（会長）、池上二良、村崎恭子、井出祥子、萩野綱男、角田太作、長嶋善郎、湯川恭敏、近藤達夫、崎山 理、佐藤昭裕、庄垣内正弘、西光義弘、藪 司郎、吉田和彦、竹内和夫、樋口康一、早田輝洋、細田鉄男（以上19名）

委任状：45名

議事に先立って、会長から河野六郎氏が文化功労者として顕彰されたことが紹介された。また大会運営委員長樋口康一氏から挨拶があった。

議 事

- （1） 会長から第2回常任委員会について報告があった。
- （2） 第108回大会については、平成6年6月11日（土）から12日（日）に横浜国立大学で行われること（大会運営委員長 鈴木重幸氏）が決定された。
- （3） 次期役員選挙の手順・日程について会長から説明があり、承認された。
- （4） 日本学術会議第16期会員候補者と推薦人の選出については、12月ころ全委員による郵便投票が行なわれる予定である。
- （5） 事務局の移転について、会長からこれまでに行なってきた検討の経緯が報告され、1994年4月から京都の中西印刷に事務を委託することが決定された。中西印刷では、今まで三省堂の事務局で行なってきたことに加えて、学会事務センターに委託してきた全部の業務を行なう予定である。これにともなって、会則第1章総則第4条の事務局設置場所の規定などの一部改訂が提案され、可決された。

新しい会則と事務手続き案内は、12月に全会員に送られる会員名簿の裏に

印刷される。

- (6) 事務局長から、言語学会宛に送られてくる寄贈図書類について、単行本は書評に回すが、紀要類は新しい事務局で整理できないため受理を断わらざるを得ない旨説明があり、承認された。
- (7) 会長から、事務局移転にともない予算に計上されていない支出が見込まれ、学会の財政難が予想されるので、その援助のために各委員から1口1万円の寄付を募りたいという提案があり、承認された。12月の学会会議関連の郵便投票時に振替用紙が同封される予定である。
- (8) 会長から、危機に瀕した言語の情報データセンターを東大に設置してほしい旨、東大総長宛に依頼状を出したという報告があり、また池上二良委員の提案を受けて、言語学会としてもこの問題に積極的に取り組むための検討委員会を設置することを決定した。委員長の人選は会長に一任された。
- (9) 会長から、1993年11月15日(月)から18日(木)に行われるアジア学会会議に対して日本言語学会として後援することが報告され、承認された。
- (10) 会長から、1993年11月27日(土)28日(日)に行われる津田日本語教育センター主催第6回日本語シンポジウムに対して日本言語学会として後援することが報告され、承認された。

第107回大会

期 日 1993年10月23日(土)～24日(日)

会 場 愛媛大学

第1日 (10月23日)

開会の辞 午後1時30分より

シンポジウム 膠着言語・言語における膠着性をめぐって

司会・パネラー諸語	梶 茂樹 (東京外国語大AA研)
日本語と朝鮮語	塚本秀樹 (愛媛大学)
アルタイ諸語	樋口康一 (愛媛大学)
ウラル諸語	岸田泰浩 (京都大学)
ドラヴィダ諸語	家本太郎 (京都大学)

会員懇親会 午後5時30分～7時30分

第2日 (10月24日)

研究発表 午前10時～12時20分

◦ A 会場

- (A 1) 10:00～ インドの lingua franca に関する一考察 榎木園鉄也
 ——アンドラ・プラデーシュ州, ハイドラバードに
 おける英語とヒンディー語について——
- (A 2) 10:30～ カナダ日系2世の英語における音韻ヴァリ 日比谷潤子
 エーション 遠藤真理子
- (A 3) 11:20～ 日, 中, 英の敬語類型と普遍理論 井出祥子
 彭 国躍
- (A 4) 11:50～ 日本語と韓国語の近隣における聞き手敬語 荻野綱男
 の対照研究 金 東俊
 梅田博之
 羅 聖淑
 盧 顕松

◦ B 会場

- (B 1) 10:00～ 否定辞繰り上げ文の fuzzy logic による考察 三田 薫

- (B 2) 10: 30～ 遂行文と遂行動詞 杉浦 滋子
 (B 3) 11: 20～ 日英語の袋小路文処理について 時本 真吾
 (B 4) 11: 50～ 述語の再帰標示と日本語における局所的束縛領域について 中村 裕昭

○ C 会場

- (C 1) 10: 00～ エストニア語の名詞句における共格修飾語の位置について 坂本真由美
 (C 2) 10: 30～ フィジー語ワイレブ方言の動詞修飾小辞 *sā* の意味 菊澤 律子
 (C 3) 11: 20～ ネワール語の *split-ergativity* を支配する要素 梅田 礼子
 (C 4) 11: 50～ 「一と思う」と発話者の態度示唆 ——フランス語および朝鮮語との対照的観点から—— 池 貞姫

研究発表 午後1時20分～4時10分

○ A 会場

- (A 5) 1: 20～ 依頼の丁寧度と文末音調: 日英比較 吉村 雅仁
 後藤美知子
 (A 6) 1: 50～ 「今日は雨が降ります」と「今日は雨が降りません」の二つの発話について「今日は雨が降りま」まで聞いてどちらであるかが推定可能なことを証明し、二つの発話の差異がアクセントによるものでなくイントネーションの違いによるものであることと、普通の日本語話者がこのようなイントネーションに関して無意識であることを示し、そのようなイントネーションがどのようなものであるかを発話のピッチの抽出によって明らかにする実験音声学的研究
 (A 7) 2: 40～ Coronal Underspecification and Dorsal 南條 健助

spreading

- (A 8) 3: 10~ 岩手方言における連母音アウ・オウの融合 齋藤孝滋
現象と要因 ——融合パターンが異なる2
方言の分析をとおして——
- (A 9) 3: 40~ 依存音韻論からみた音韻習得 上田 功

・ B 会場

- (B 5) 1: 20~ エピソード記憶意味論に基づく「た」の統 高木一広
一的分析
- (B 6) 1: 50~ 失語症患者の産出文における不適切な項に 井原浩子
関する一考察 藤田郁代
- (B 7) 2: 40~ 語彙的意味に基づく結束性について 庵 功雄
- (B 8) 3: 10~ 「が」と「の」の問題 吉村紀子
- (B 9) 3: 40~ 時間表現「一ウチニ／一ウチハ」と「モウ 山崎和夫
／マダ」

・ C 会場

- (C 5) 1: 20~ アラビア語の同化にかかわる強勢音につい 桑本裕二
て
- (C 6) 1: 50~ アクセントから見た音節 湯川恭敏
- (C 7) 3: 10~ 前古典期モンゴル文語における正書法上の 栗林 均
一特徴
- (C 8) 2: 40~ 朝鮮語における音節化: 借用語からの証拠 平野日出征
- (C 9) 3: 40~ ロマンズ語類型論のために 下宮忠雄

閉会の辞

◇ 受贈図書リスト (平成5年5月1日～10月31日)

- 英米文学と言語 第二期 第二号 (ビビュロス研究会 1993)
- 音声科学研究 XXVI (京都大学音声科学総合研究部会 1992)
- 計量国語学 19巻1号, 2号 (計量国語学会 1993)
- 研究紀要 第14巻 第1号 (鹿児島女子大学 1993)
- 研究報告集 14 (国立国語研究所 1993)
- 言語学研究 第11号 (京都大学言語学研究会 1992)
- 言語文化研究 19 (大阪大学言語文化部・大学院言語文化研究科 1993)
- 言語文化研究 第11号
(東京外国語大学大学院 外国語学研究科言語・文化研究会 1993)
- 言語論を問う (荒木直樹著) (近代文芸社 1993)
- 言文だより No. 10 (大阪大学言語文化部・大学院言語文化研究科 1993)
- 国語学 173, 174 (国語学会 1993)
- 国語学研究 32 (東北大学文学部『国語学研究』刊行会 1993)
- 国語表現研究 6 (国語表現研究会 1993)
- 国際化する日本語 話し言葉の科学と音声教育
(第7回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編)
(クバプロ 1993)
- 国立国語研究所年報 平成3年度 43 (国立国語研究所 1992)
- 作新学院大学紀要 第3号 (作新学院大学経営学部 1993)
- ザンを上納した人達 ——南琉球新城方言の音声とジラバ——
(久野マリ子, 久野真, 大野真男, 杉村孝夫著) 付, CD1枚
(国学院大学日本文化研究所 1993)
- 史苑 第53巻 第2号 (立教大学史学会 1993)
- 視点と主観性 ——日英語助動詞の分析—— (滞田治美著)
(ひつじ書房 1993)
- 宗教研究 296 第67巻 第1輯 (日本宗教学会 1993)
- 上智大学言語学会会報 7 (上智大学言語学会 1992)

人文科学科紀要 第97輯 XXVI

(東京大学 教養学部人文科学科国文学・漢文学研究室 1993)

体験話法(自由間接話法)文献一覧 ——わが国における

体験話法研究——(保坂宗重, 鈴木康志著) (茨城大学教養部 1993)

たぬるをたぬる ——萬葉集のタナ・ダニ考——(矢野茂著)

(矢野茂 1993)

調査報告集 14

(国立民族学博物館 情報管理施設 1993)

朝鮮学報 第百四十七輯, 百四十八輯

(朝鮮学会 1993)

通信 第78号

(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1993)

東京外国語大学論集 第45号-1992 第46号-1993

(東京外国語大学 1992~93)

東方学 第八十六輯

(東方学会 1993)

東方学会報 No. 64

(東方学会 1993)

東洋学報 第74巻 第3-4号

(東洋文庫 1993)

都大論究 第30号

(東京都立大学国語国文学会 1993)

日本学術会議月報 第34巻4月~9月号 (日本学術会議広報委員会 1993)

日本語教育通信 第15号, 16号 (国際交流基金日本語国際センター 1993)

日本語研究 第12号-1991 第13号-1992

(東京都立大学国語学研究室 1991~92)

函館英文学 XXXII

(函館英語英文学会 1993)

文学研究 第90輯

(九州大学文学部 1993)

みんぱく 5月~10月号

(国立民族学博物館 1993)

山形女子短期大学紀要 第25集

(山形女子短期大学 1993)

山口国文 第16号

(山口大学人文学部国語国文学会 1993)

山口女子大学文学部紀要 第2号

(山口女子大学 1992)

山口大学独仏文学 第15号

(山口大学独仏文学研究会 1993)

ユカギール語文法概説(遠藤史著) (北海道大学文学部言語学研究室 1993)

立命館 言語文化研究 4巻5号, 6号

(立命館大学国際言語文化研究所 1993)

- Acta Asiatica 65 (東方学会 1993)
- Вестник Санкт-Петербургского Университета 4-1992 1, 2-1993
(Издательство С. —Петербургского университета 1992~93)
- Bulletin No. 139, 140 (The Linguistic Society of America 1993)
- Bulletin Vol. LVI. Part 2
(The School of Oriental and African Studies 1993)
- Language Vol. 69 No. 1
(The Linguistic Society of America 1993)
- Lexicon No. 23 (岩崎研究会 1993)
- Litteratura 14 (名古屋工業大学外国語教室 1993)
- The Petersburg Journal of Cultural Studies Vol. I No. 1
(Biznes-Nauka-Proizvodstvo 1993)
- Русская Литература 3, 4
(Наука, С. —Петербургское отделение 1992)
- Русский Язык в школе 3・4, 5・6-1992 1, 2-1993
(Москва 1992~93)
- Slovo a Slovesnost LIII 4
(Československá Akademie Oriental Institute Čsav 1992)
- Symposion 8 (ドイツ語学文学研究会 1993)

学会事務局の移転について

日本言語学会の事務運営は、1985年国広哲弥会長の時期以来、学会事務局を三省堂出版局内に置き、会費納入、会誌・プログラムの発送などの会員業務を日本学会事務センターに委託して行ってきました。しかし、三省堂出版局の都合により、現執行部の任期満了に当たる1994年3月末をもって学会事務局を移転せざるを得なくなりました。そのため1993年春の委員会で事務局対策委員会を設置して種々対策を講じてきましたが、最終的に、中西印刷株式会社（京都市上京区下立売通小川東入）と交渉の結果、1994年4月から学会事務局を同社に移すという案がまとまり、1993年秋の委員会で、それに伴う一部会則の変更も含めて、この最終案が了承可決されました。

学会事務局が中西印刷に置かれるのに伴い、従来の事務局の仕事だけでなく、これまで学会事務センターに委託していた会員業務、および学会機関誌『言語研究』の印刷刊行も一括して同社に委託することになりました。学会の窓口が一本化されるため、学会の事務手続きもこれまでとは大きく変わることが予測されます。新しい事務手続き案内についての詳細は、いずれ別の形で全会員にご連絡する予定です。

これまで学会の事務運営は、上記三省堂出版局および日本学会事務センターのほか、困難な『言語研究』の組版・印刷は20余年にわたり、近藤印刷株式会社に、『言語研究』のバックナンバーの保管および販売は三省堂外書部に委託してきました。学会の運営がこれまで円滑に行われてきたのも、ひとえにこれら関係各社の温かいご支援とご協力のたまものにはほかありません。とりわけ、三省堂出版局の高橋昭氏等には事務局の設置についてなみなみならぬご尽力をいただいただけでなく、常任委員会や編集委員会の開催についてのご配慮や、『言語研究』の編集作業に関しても格別のご援助をいただきました。また、学会事務局のもっとも中心的な業務は、学会事務員入貝美恵子さんのすぐれた事務処理力と献身的なご協力によって支えられてきました。

今回の事務局の移転に当たり、これまで学会の運営を陰で支えてくださった関

係各位のご厚意とご尽力に対して、ここに記して、言語学会一同、心から深く感謝の意を表明する次第です。

1994年4月1日以降の学会事務局に対する連絡は、以下のところをお願いします。

〒 602 京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社内
日本言語学会事務局
電話 075-441-3159 FAX 075-441-3159

◇ 本学会評議員 河野六郎氏は、平成5年度の文化功労者として顕彰されました。また、本学会委員 北村 甫氏は、平成5年度秋の叙勲において、勲三等旭日中綬賞を受賞されました。本学会として、心よりお祝い申し上げます。

◇ 本誌は、文部省平成5年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。